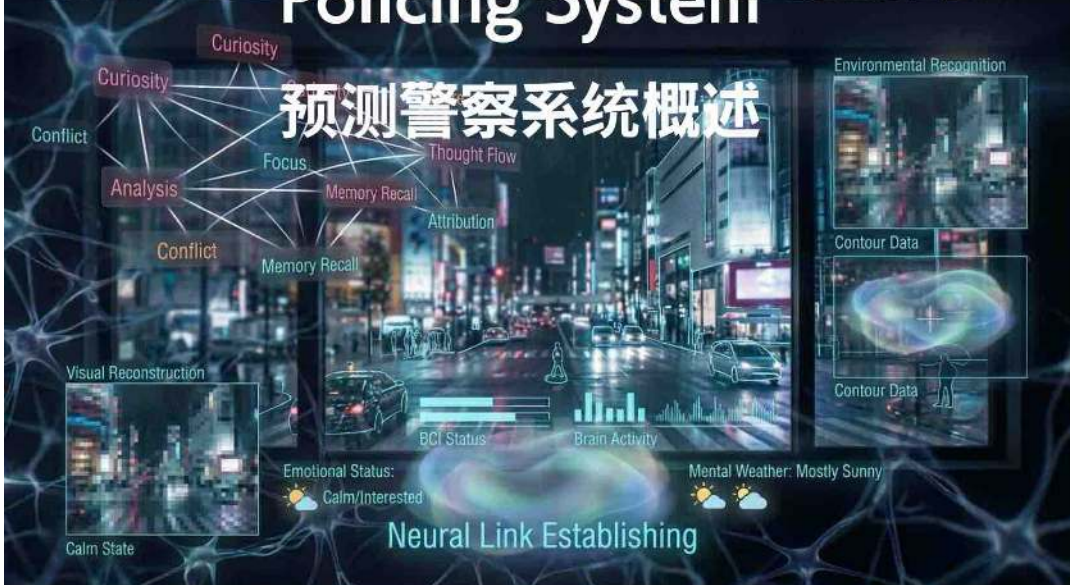




予測警察システムの概要紹介

1000 文字版

目次

予測警察システム①～⑬記事概要まとめ(1000 文字版)	4
予測警察システム①：考えただけで送信が阻止され、AI に調教・支配される時代の到来（未完成版）	4
予測警察システム②：人体ハッキングのメカニズム（未完成版）	5
予測警察システム③：「磁性ナノ粒子」で脳や身体をコントロールする仕組み（未完成版）	6
予測警察システム④：健康被害の仕組みと「簡易対策」――国家テロによる市民迫害（未完成版）	7
予測警察システム⑤：国家テロとイジメは同じ構造――加害組織の「見えない偽装」を読み解く（未完成版）	8
予測警察システム⑥：モニタリングされる恐怖――なぜ「まともな人」が自殺や裏切りに追い込まれるのか（未完成版）	9
予測警察システム⑦：「脳間通信」が生み出す話の通じない「支配者心理」とナノ粒子対策（未完成版）	10
予測警察システム⑧：電場でも人体を操るナノ粒子――完全監視が選挙を成立させなくして極右が支配する未来（未完成版）	11
予測警察システム⑨：一般市民を恐怖に陥れる「ギャングストーキング」は「N3 兵士」の市街地戦？（未完成版）	12
予測警察システム⑩：脳間通信の技術開発の歴史と「加害者と被害者の 2 極化」の仕組み（未完成版） ..	13
予測警察システム⑪：恐るべき見えない加害者との『コミュニケーション』方法――思考監視と身体攻撃が作る支配の構造（未完成版）	14
予測警察システム⑫：なぜ「正しいことをする人」が被害者になるのか？――戦争・テロ・不正選挙を製造する脳間通信ネットワーク（未完成版）	15
予測警察システム⑬：ナノ粒子を利用した「見えない暴力」と、人類を二極化する「トランスヒューマニズム」（未完成版）	16

予測警察システム①～⑬記事概要まとめ(1000 文字版)

予測警察システム①：考えただけで送信が阻止され、AI に調教・支配される時代の到来（未完成版）

予測警察システムは、核兵器以上に人類を支配する仕組みとして描かれます。X では、いいねやリツイートが消える、投稿しようとするエラーになる、アカウントがロックされるといった被害が起きます。愛子さまの投稿でハートが赤から白に戻り、いいねが消える現象もその例として挙げられます。戦争反対やナフサ不足を指摘すると集団リンチを受け、事実を言う人が黙らされる構造があります。偽りを語る者が称賛され、真実を語る者が売国奴と罵られる時代です。金の力で事実が歪められ、AV 産業や歴史修正、イスラエル擁護、労組潰しでも報酬と引き換えに虚偽や嫌がらせが行われるとされます。巨額広告費で戦争や改憲を煽り、同意を偽装する動きもあります。予測警察の現象としては、考えて 1 秒以内に Wi-Fi や VPN が切れる、送信ボタンが押せない、自動保存が止まる、メモ帳が落ちる、マウスや画面が固まる、腹鳴・異臭・屁・腹痛などが起きます。X では高市批判の送信、通知、DM、いいね、リツイート、翻訳が妨害されます。仕組みは、脳波検知、端末やルーターでのエッジ処理、AI による送信意図の検知、通信の物理的遮断、失敗を繰り返させて諦めさせる学習性無気力の 5 層です。Palantir や ICE の ImmigrationOS、ELITE にも触れ、外部の救急車や飛行機の異変が数百ミリ秒で起きるように見えるのは、AI が事前に指令を出しているためだと説明します。個人の思考と国家レベルの監視が結びつき、反対や告発を未然に防ぐ支配システムとして位置づけます。

予測警察システム②：人体ハッキングのメカニズム (未完成版)

人体ハッキングでは、正しいことを言う人ほど弾圧されます。国連のアルバネーゼ氏はガザでのジェノサイドを非難したため、組織的な中傷や制裁に晒されました。ICC の裁判官や検察官も米国の制裁を受けています。トランプ、高市、ネタニヤフが強気でいられるのは、脅しの手口が理解されず、不都合な情報を統制できるからです。エプスタイン事件の被害者も、告発直後から脅迫、嫌がらせ、威嚇を受け、嘘つきや売春婦と呼ばれ、家族や子供まで攻撃されます。被害者はキチガイ扱いされ、住所や居場所を晒され、周囲を攻撃され、孤立させられ、最終的に脅しに屈する流れを作られます。人体ハッキングの現象には、虫やカラス、つきまとい、運転中の眠気、目やに、視界不良、対向車のライトの眩しさ、呼吸困難、咳、吐き気、心拍上昇、異臭、筋肉の痙攣、腹鳴、屁、腹痛があります。これらが思考や言動とリンクして起きる点が恐ろしいとされます。イジメ被害者が訴訟準備をすると腹鳴や腹痛、救急車のサイレン、非通知電話が起き、反撃を考えると心拍上昇や喉の苦しさが起きます。引越しても一時的に減るだけで、再び被害が増えます。身体は随意、不随意、混合型に分かれ、意識で動かせない自動部分を外部から操作できると考えます。磁性ナノ粒子や磁気電気ナノ粒子で脳深部を刺激できる可能性があります。2026 年のベネズエラ侵攻では、心臓の鼓動の電磁パルスを探知するゴースト・マーマーが使われ、予測警察が軍事レベルへ拡大したとされます。

予測警察システム③：「磁性ナノ粒子」で脳や身体をコントロールする仕組み（未完成版）

諜報機関は長年、人間の支配とコントロールを研究してきました。MK ウルトラ計画では LSD や催眠術によるマインドコントロールが研究され、731 部隊では人体実験が行われました。エプスタイン・ファイルからも、富裕層や諜報機関が人体実験やコントロールに関心を持っていたことが見えます。1977 年と 2026 年の公聴会では、MK ウルトラの実態や文書破棄、墨消しが問題になりました。NANO-Mind は、韓国の IBS と延世大学が 2024 年に発表した、磁場で脳の特定領域を遠隔操作する技術です。頭蓋骨に穴を開けず、磁化ナノ粒子と磁場でマウスの食欲や母性行動を操作できます。オプトジェネティクスより非侵襲的で、磁場は生体組織を透過します。悪用されれば、独裁政権が一般大衆の心を遠隔操作しても気づかれない可能性があります。池上彰の番組でもターミネーター兵士計画として、恐怖心をなくし、記憶・感情・判断を操作する技術が紹介されました。MENPs は磁場を電場に変換し、双方向 BCI を可能にします。MPI は磁性ナノ粒子の動きを監視できます。磁場異常はギャングストーキング被害者の訴えと一致し、TMS で指や腕の痙攣を起こせること、スマートハウスやデジタルツインで電流や磁場を制御できることが説明されます。磁性ナノ粒子で腹鳴、下痢、異臭、心拍上昇、喉の苦しさを起こす仕組み、昆虫や動物の行動制御、AI が先回りして救急車やバイクを動かす予測のトリック、ポケモン GO 型の報酬で周囲の人を動かす社会工学も解説します。

予測警察システム④：健康被害の仕組みと「簡易対策」――国家テロによる市民迫害（未完成版）

磁性ナノ粒子と外部磁場で、腰痛、関節痛、視界不良、筋肉痙攣、皮膚の痒み、心臓発作、脳出血、便秘、睡眠障害、大腸癌が引き起こされる可能性を整理します。腰痛は脊髄や延髄、視床下部が関与し、痛みの信号の増幅や抑制のブレーキを操作することで起きます。関節痛は TRPV1 を刺激し、炎症と軟骨破壊を進めます。視界不良は網膜や視覚野への刺激で、実際の光がなくてもボヤけやチカチカを感じさせます。筋肉痙攣はカルシウムチャンネルを操作し、随意運動を乱します。皮膚の痒みはマスト細胞からヒスタミンを放出させます。心臓発作は CaV1.2 や自律神経節叢を操作し、脳出血は血液脳関門を緩め、血管を弱らせます。便秘は腸の蠕動運動を抑え、睡眠障害はオレキシン神経を傷つけ、大腸癌は活性酸素種で DNA を傷つけます。症状は混合型、随意主、不随意主に分かれ、本人が気づきにくい自動システムほど防御が難しいです。対策として、放射線は鉛、マイクロ波は水を含んだタオルやジェルパッド、運転中の急な眠気には停車、水タオル、ジェルパッド、首を 45 度傾ける、充電池を袋に入れて首の後ろにつける方法があります。国家テロの実例として、南米の死の部隊、汚い戦争、キャラバン・オブ・デス、失踪という仕組みも紹介されます。

予測警察システム⑤：国家テロとイジメは同じ構造——加害組織の「見えない偽装」を読み解く（未完成版）

加害組織が見えないのは、危険な業務を民間に外注しているからです。TIA は議会で資金を削除されましたが、直後に Palantir が設立され、CIA の投資部門 In-Q-Tel が出資しました。Palantir は ICE と契約し、ImmigrationOS や ELITE を提供しています。日本でも警備会社に警察 OB が迎えられ、辺野古の反対派リストが作られました。カルトや宗教への偽装も加害組織を隠します。日本会議、統一協会、キリスト教福音派、MAGA などに偽装すると、おかしい活動も熱心な信者として見過ごされます。高市首相の名前が統一教会の内部文書に 32 回登場したことも取り上げられます。普通の人々が加害に加担するのは、報酬や出世、承認欲求があるからです。イスラエルでは人質の位置情報に 500 万シェケル、シリオン・コレクティブは情報提供に 500～15000 ドルを支払います。兵士にはブルーウルフでパレスチナ人の写真を競わせるゲーム化が行われました。関西生コン事件では右翼活動家が月 70 万円を受け取り、労組潰しに加担しました。犯罪者は CIA にリクルートされ、ノリエガや児玉も例に挙げられます。加害組織は鬼滅の鬼と同じピラミッド構造で、頂点の無惨が血と恐怖で支配し、上級鬼と無数の鬼が続きます。ナチスの分業、婉曲表現、命令服従、報酬で罪悪感を消す設計とも重なります。イジメは 4 層構造と組織的ターゲット化の 6 フェーズで進み、選定、監視、ストーキング、信用破壊、攻撃、継続的監視の流れになります。イジメは宿題、金銭、パシリ、性的搾取、身代わり、感情のゴミ箱、生贄、優越感、共犯の鎖など搾取の利益を生みます。

予測警察システム⑥：モニタリングされる恐怖—— なぜ「まともな人」が自殺や裏切りに追い込まれる のか（未完成版）

普通のイジメとギャングストーキングの違いは、相手の脳や感情をモニタリングできる点です。怯え、悲しみ、泣き言、怒り、諦めをリアルタイムで把握し、最も苦しむポイントを攻撃します。ペットを亡くさせるなど弱点を突き、絶望の瞬間に追い打ちをかけます。工事音や救急車、暴走バイク、飛行機の音を一定パターンで聞かせ、耳栓やイヤーマフをしても音を大きくして逃げられないと感じさせます。工事業者、宅配業者、バス、タクシーなどが監視ネットワークの一部になっている可能性も指摘されます。目的は脅して怯えさせ、言いなりにすることです。虫が突然現れる、無言電話や営業電話がタイミングよくかかるのも驚かせる手口です。敵が嫌がるから正しいという論法は、イジメの加害者の論理と同じで、批判を封殺する装置になります。兵庫県の告発文書問題では、公益通報者が死亡し、追及した元県議も死亡し、死に追い込んだ側は不起訴になりました。危険人物としてマークされるのは、共産主義者、権力の不正を追及する市民、ジャーナリスト、内部通報者、弱者を擁護する人です。共和党支持者でもトランプ批判をするまともな感覚の人が被害に遭います。特殊な手口として、対向車のライトを光源側と受け手側の2経路で眩しくする方法、公共空間で偶然を装うストーリーシアター、真犯人を隠す偽旗作戦、捏造された被害者像を共有するエコーチェンバーがあります。思考と感情をモニタリングできると、感情操作、完璧なガスライティング、弱点の完全把握、先回りの支配、拷問の完全な設計が可能になります。心の自由という最後の砦が奪われる危険があります。

予測警察システム⑦：「脳間通信」が生み出す話の通じない「支配者心理」とナノ粒子対策（未完成版）

脳間通信と思考・感情のモニタリングが、交渉不要の支配者心理を生みます。相手の限界や恐怖、降参のタイミングが見えると、対話は要求と従属に変わります。降伏のタイミングを正確に測れるため、相手が折れるまで攻撃を続けます。権力感と万能感、脱人間化、ゼロサム思考、サディズム、共感の低下、道徳的免責、自己選抜と閉鎖環境、成功体験のフィードバックループが重なり、傲慢で支配的な人格が強化されます。DARPA の Silent Talk は 2009 年に発声前の脳信号を読む研究として始まり、N3 プログラムは 2018 年に手術なしの双方向 BCI を目指しました。BrainSTORMS の磁電ナノトランスデューサーは、ニューロンの電気信号を磁気信号に変換し、外部ヘッドセットとやり取りします。MOANA は遺伝子治療と光で脳活動を読み取り、受け手の脳に磁性ナノ粒子で書き込みます。NHK クローズアップ現代でも N3 が紹介され、視覚情報を 50 ミリ秒以内に別の脳へ伝える構想が説明されました。兵士は思考でドローン群やロボットを操作し、仲間と沈黙のコミュニケーションができます。対策は、吸入を減らす N95 マスク、空気清浄機、鼻腔洗浄、イヤホン・スマホの 3 つの 60 原則、睡眠時のデバイス管理、磁性・銀ナノ粒子を含む防護繊維、食物繊維と水分、運動、血液浄化、メラトニン、オメガ 3、抗酸化物質、磁場源を避けること、症状の記録です。完全な防御は難しく、知ることと記録することが最初の抵抗になります。

予測警察システム⑧：電場でも人体を操るナノ粒子――完全監視が選挙を成立させなくして極右が支配する未来（未完成版）

磁性ナノ粒子だけでなく、電場で動く圧電性ナノ粒子や電場応答性ナノ粒子でも人体を操作できる可能性があります。圧電性ナノ粒子は超音波で電気を発生し、迷走神経を刺激して腸の蠕動運動を亢進させます。電場応答性ナノ粒子は外部電場で直接電流を発生し、腸壁の神経や平滑筋を刺激します。2V/m は神経反射のスイッチを入れ、148V/m は平滑筋やナノ粒子を直接動かします。簡易ファラデーゲージ内で電場ゼロ、磁場ゼロにすると攻撃は最初は減りましたが、後に 2V/m の電場で腹鳴攻撃が起きるようになりました。モニタリングされているため、対策に応じて攻撃側が切り替えていると見られます。水を含んだスポンジを腰に巻いていたら粉末状の物質が発生した経験も紹介されます。N3 兵士は相手の運動準備電位や情動を読み、行動前に先回りできます。完全・即時・全域のモニタリングが実現すると、選挙も戦争と同じ情報の非対称性で決まり、通常選挙が成立しなくなります。野党の政策発表や街頭演説、緊急記者会見は事前に読まれ、有権者の投票意欲や棄権の芽も把握され、エコーチェンバーで捏造された野党像が拡散され、SNS そのものが監視の道具になります。マスクが選挙結果を事前に知っていた例も挙げられ、監視側がリアルタイムで予測しながら戦うため、野党は一方的に負け続けると説明します。

予測警察システム⑨：一般市民を恐怖に陥れる「ギャングストーキング」は「N3 兵士」の市街地戦？ (未完成版)

加害側は電場、磁場、超音波、光など複数の操作チャンネルを持ち、N3 兵士が日常空間で心理的圧迫、監視、威圧を行います。バイクでの追跡では、ターゲットの運動準備電位を読み、ハンドルを切る前に進路を取ります。複数の N3 兵士は脳間通信で連携し、空から 1 名、バイク 2 名、地上 2 名の計 5 名で包囲します。護送船団では前衛車、左右の並走車、後方車、偽装救急車、対向車線の車両、上空ドローンが連携します。救急車のサイレンは、反撃や逃走を考えた瞬間に鳴らされ、抵抗を考えれば嫌なことが起きるという条件付けを作ります。スーパーやダイソーでは、AI が周辺の人にミッションを送り、ポイントや報酬で一般協力者を動かし、ガラガラの店に急に客を集めます。工事音や宅配便のタイミングも、思考や行動を読んで偶然を装う嫌がらせに使われます。上空旋回や低空飛行で告発や訴訟を考えた瞬間を狙い、見られていると意識させます。こうした行為は権力感、脱人間化、ゼロサム思考、サディズムで支配者心理を強化します。弾圧が反発を生み、反発が治安予算を正当化する治安ビジネスの構造もあります。パレスチナでは顔認証や監視カメラ、家宅搜索、召喚で心理的テロリズムが行われ、アルゼンチンの汚い戦争やエルサルバドルの死の部隊も同じ構造です。日常の嫌がらせは見せしめとして機能します。皮膚の切り傷は酸化ストレス、電場による細胞膜破壊、無意識の搔破で説明され、尿や便からの検出は SQUID や MPS で研究レベルでは可能です。金属で頭を覆っても電場と磁場のシールドは別物で、静磁場にはパーマロイなどが必要です。

予測警察システム⑩：脳間通信の技術開発の歴史と 「加害者と被害者の 2 極化」の仕組み（未完成版）

脳間通信は妄想ではなく、80 年以上にわたり諜報機関や軍事機関で研究されてきました。第 1 期は冷戦時代の MK ウルトラとコップファーク計画です。MK ウルトラは LSD や催眠術で精神を操作し、1977 年の公聴会で 80 機関、185 名の研究者、149 のサブプロジェクトが明らかになりました。コップファーク計画はテレパシーによるスパイ活動と犯罪防止を目指し、ARD デバイスが開発されました。スターゲート計画では遠隔視が研究されました。第 2 期は 2009 年の Silent Talk 計画で、発声前の神経信号を EEG で読み、声を使わずに通信する技術を目指しました。第 3 期は 2018 年の N3 プログラムで、手術なしの双方向 BCI を開発しました。BrainSTORMS の磁電ナノトランスデューサーは、ニューロンの電気信号を磁気信号に変換し、外部ヘッドセットとやり取りします。2026 年に N3 は完了と宣言されましたが、詳細は公開されていません。第 4 期は 2026 年以降のナノ粒子双方向 BCI で、MENPs がサブミリメートルの空間分解能とミリ秒の時間精度で神経調節と記録を可能にすると予測されています。欧州議会議員や DARPA 顧問の発言も紹介されます。加害組織は諜報機関、司令塔、N3 兵士、傍観型加担者、傍観者、被害者のピラミッド構造です。加害者には双方向通信できる MEnT、被害者には一方的に刺激する酸化鉄磁性ナノ粒子が使われます。通信と攻撃は同じ技術の表と裏で、N3 の書き込み機能は悪夢のような映像や思考操作にも転用可能です。

予測警察システム⑪：恐るべき見えない加害者との『コミュニケーション』方法――思考監視と身体攻撃が作る支配の構造（未完成版）

被害者は加害者の正体がわからないまま、思考監視と身体攻撃を受けます。加害者同士は脳間通信で見えないグループチャットのようにつながり、被害者の反応を共有しながら攻撃します。被害者は一方的にモニタリングされ、身体をハッキングされます。加害者の正体がわからないのは、イジメと同じ設計で、誰が始めたか、誰が指示しているかが見えないからです。姿を隠して脅すのは、顔を合わせて話せば済むことを避け、同意の偽装をするためです。音攻撃では、MENPs で思考をリアルタイム監視し、N3 兵士が双方向ネットワークで連携し、音の伝播速度を計算して先回りします。10km 上空の飛行機は約 29 秒、2km 先のバイクは約 6 秒、1km 先の救急車は約 3 秒前に指令を出し、被害者が考えた瞬間に音が届くようにします。思考と音の同期が繰り返されると、考えたり行動したりすると不快な音が鳴ると学習し、自主検閲と学習性無気力が起きます。電車やバスでは、反復、視線、位置取り、ミラーリング、スマホ、咳、降車の一致、突然の停車、オンオフのガスライティングで監視されていると意識させます。外出が怖くなり引きこもると、周囲にデマや悪評を流され、先行信用破壊で孤立します。家の中でも腹鳴、下痢、異臭などの身体ハッキングが行われ、外出しようとするとう腰痛、関節痛、下痢、視界不良、眠気で拷問されます。密室や閉鎖空間はデジタル通信遮断でも作られ、古典的条件付けで加害者の要求が伝わります。やがて増税や戦争、改憲、徴兵に賛成するなど、自発的に自滅する言動が起きます。加害組織は表の顔と裏の顔を使い分け、バレても話をすり替え、罪悪感を消す仕組みを持っています。

予測警察システム⑫：なぜ「正しいことをする人」が被害者になるのか？――戦争・テロ・不正選挙を製造する脳間通信ネットワーク（未完成版）

正しいことをする人ほど被害者になります。殺害予告や自殺誘導が続き、道徳的正義に基づく告発が行われます。対策として、水でマイクロ波を弱める、冷却ベスト、ペットボトルの水、ベッド周囲の金属遮蔽が紹介されます。ハラリの無用者階級論では、AI とバイオテクノロジーで少数の超人類と大多数の不要な人々に分断されます。被害者は自分が攻撃される理由がわからず、6 フェーズの選定、監視、ストーキング、信用破壊、攻撃、継続的監視で追い詰められます。警察、行政、弁護士、マスコミに訴えても、脳内ネットワークで先回りされ、握り潰されます。Palantir の監視技術が無実の市民やジャーナリストに兵器化されているとして、米国下院議員が ICE と DHS に質問状を送りました。加害組織はカルトと美德に偽装し、日本会議や統一協会、福音派の信者を装って日常に溶け込みます。脳内通信のエコーチェンバーは言語を介さず思考そのものを共有するため、反論の余地が消えます。リアルタイム監視で行動前に介入し、バイク便ライダー、救急隊員、建設作業員が日常に溶け込んで圧力をかけます。勝ち組になりたければ協力しろと勧誘し、報酬と共犯の鎖で逃れられなくします。脳間通信は証拠が残らず、戦争やテロ、デモを起こして武器を売るための兵器になります。正しい人はブラックリストに載せられ、正義と悪が逆転します。戦争が止まらないのは予測警察が反対を未然に防ぐからです。不正選挙では選挙管理委員会や集票管理者が買収され、韓国や日本、南米で統計操作や AI 動画、跨国極右ネットワークによる選挙干渉が起きます。ICC への制裁で国際社会も機能不全にされます。

予測警察システム⑬：ナノ粒子を利用した「見えない暴力」と、人類を二極化する「トランスヒューマニズム」（未完成版）

ナノ粒子を使った見えない暴力と、人類を二極化するトランスヒューマニズムがテーマです。酸化グラフェンは化学プラットフォームで磁氣的性質を持たず、磁性ナノ粒子は磁場で操作できる物理ツールです。磁性酸化グラフェンは両者を組み合わせ、肝臓、脾臓、肺に長期間蓄積します。見えない暴力は、直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力に分けられ、ガスライティング、モラルハラスメント、アルゴリズム差別、監視資本主義として高度化します。思考や感情をモニタリングできると、希望を持ち始めた瞬間を打ち砕き、助けを求める直前に妨害し、自殺を考え始めた背中を押せます。優生思想はギルガメシュ叙事詩や旧約聖書の選民思想に遡りますが、選民思想は本来、血統的優劣ではなく契約と義務の概念です。ゴルトンが優生学を作り、アメリカの強制断種法やロックフェラー財団の資金、ナチスの T4 作戦、大日本帝国の皇国史観と大東亜共栄圏、非人間化による虐殺へつながりました。戦後、ハクスリーが優生学をトランスヒューマニズムとして言い換え、冷凍保存、エクストロピアニズム、NBIC 収束、カーツワイルのシンギュラリティ論、マスクのニューラリンクへ続きます。意識や記憶を外部から操作できる危険があり、電腦化サイボーグ兵士は優生学の延長線上にあります。ウェルズの二つの人類、ハラの無用者階級、金融雇用の削減、トランプのイラン戦争による困窮化も二極化を進めます。脳間通信のエコーチェンバーは反論不能なファシズム集団を生み、正しい人はブラックリストに載せられ、戦争が止まらない構造が維持されます。